あ　と　が　き

◆『ティリッヒ研究』第７号をお届けいたします。この「あとがき」の場を借りて、最近のティリッヒ研究会の活動について、ご報告したいと思います。まず、最初にご報告したいのは、これまでも、『ティリッヒ研究』の「あとがき」などでお知らせしてきた、パウル・ティリッヒ『平和の神学　1938-1965』（新教出版社）が、この８月に無事に出版されたことです。「翻訳あとがき」では、現代キリスト教思想研究会やティリッヒ研究会についても、ご紹介いたしましたので、一度ご覧ください。この数年来、取り組んできた翻訳作業がこうして完了したことについては、翻訳に参加いただいた研究会メンバーに感謝すると共に、新教出版社に対して心よりお礼申し上げます。

◆報告の第二点は、この『ティリッヒ研究』第７号のタイトルにもある、宗教学会第６２回学術大会（2003 年 9 月 5 日午後、天理大学）における「テーマセッション：ティリッヒ研究の現状とその可能性」の件です。このテーマセッションは、ティリッヒ研究会が中心に企画したものであり、前半の個人発表に続き、後半に総合討論を行いました。全体で３時間を超えるセッションとなりましたが、役割分担など概要は、以下の通りです。

(1)コーディネーター：芦名定道、　司会：小原克博、　記録：鬼頭葉子

(2)個人発表

近藤　剛「初期ティリッヒのフィヒテ解釈」

高橋良一「ティリッヒのキリスト論－カッセル講演を中心に－」

今井尚生「ティリッヒとフロム－自己愛をめぐって－」

石川明人「ティリッヒの教会建築論について」

岩城　聰「ティリッヒの宗教社会主義論－その現代的意義についての一考察－」

芦名定道「ティリッヒと平和の神学－平和・戦争・民族－」

(3)総合討論：「ティリッヒ研究の現状とその可能性」

1. パネラー堤題

近藤　剛「ティリッヒ研究の動向　未公刊草稿の扱い方」

岩城　聰「現代のコンテキストにおけるティリッヒ研究」

高橋良一「宗教的多元性とティリッヒ研究」

2. コメンテーター（石川明人、小原克博）からのコメントと討論

3. フロアーからの質疑

なお、セッション後、奈良市に場所を移して、懇親会を行いました。

◆このテーマセッションの趣旨は、以下の通りです。

　ティリッヒ研究は、現在世界的規模において、広範な問題領域や研究テーマをめぐって、きわめて活発な動きを示している。本セッションは、こうした動向を念頭におきながら、ティリッヒ研究の多様な動きを整理し、それを通して今後の研究の展望を開くことを目的としている。しかし、これは狭いティリッヒ研究の枠内でのことというよりも、このティリッヒ研究という具体的な地点から、キリスト教思想研究あるいは宗教思想研究の可能性を展望するということであって、セッションでの活発な議論を期待したい。

◆『ティリッヒ研究』第７号では、宗教学会のテーマセッション特集号として、このセッションにおけるそれぞれの個人研究発表を論文として収録した。収録に際しては、発表時の質疑を踏まえ、それぞれかなりの修正・加筆が施されている。また、今井尚生氏、高橋良一氏の発表に関しては、発表原稿を「学会報告」として収録させていただいた点を、お断りしておきたい。

◆これから 2003 年度の後半においても、ティリッヒ研究会は、月一回の研究会を中心に活動を続けてゆく予定である。この研究会がよき共同研究の場となるように、メンバーの方々をはじめ、関係各位の皆様のご協力を、今後ともよろしくお願いしたい。

研究会代表

芦名　定道